

## 事業報告書 (平成29年度)

事業名 地域の神話伝説 (神武天皇高島東征) の継承と史跡探索

団体名 神武天皇高島滞在神話伝説を語り伝える会

担当者名 井上 敏志

※活動の様子がわかる写真 (データもお願いします) と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容 (日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

#### (1) 高島史跡調査等 (平成29年10月1日、高島、8人)

- ① 児島湾に浮かぶ孤島 (高島) に渡って、高島神社周辺および岩磐山頂上付近の清掃および神武天皇に関わる史跡調査を行った。高島神社西側の道縁に井戸を発見した。高島には良水の井戸が3個あるがその1つであろう。
- ② 岩磐山頂上は背丈の高い草が一面に生えていたので、草刈りおよび清掃をした。清掃後、頂上周辺の史跡を調査したが、真新しい史跡は発見できなかった。高島遺跡見取り図を参考にして、史跡調査を行い指標を立てる等の必要性を感じた。

#### (2) 高島サミットの開催 (平成29年10月15日、光南台公民館 40名)

- ① 神武天皇が吉備国東遷された際、立ち寄られたと伝えられている各地の歴史研究家等が光南台公民館に集まってサミットを開催した。
- ② 岡山理科大学の白石教授による高島 (南区宮浦) の発掘調査の結果についての講演会を開催した。
- ③ 吉備国東遷の際、神武天皇が立ち寄られたとされるそれぞれの高島における神話伝説および史跡についての発表があった。
- ④ 今後の連絡会、連携についての意見交換を行った。また岡山県観光課長等から岡山県の観光資源の有効活用について提案があった。
- ⑤ 場所を児島湾に浮かぶ孤島「高島」に移して、高島神社、岩磐山頂上付近の探索を行い「神武天皇児島湾の航路を探る」、「磐座で何を祈祷したか」、「長期高島に滞在した意味」等をテーマに参加者で話し合った。

#### (3) 水島高島～宮浦高島の航路探索 (平成30年1月7日 瀬戸内海沿岸 4名)

- ① 東遷当時の瀬戸内海、児島湾はどのような海であったか。
- ② どのような航路で航海したか。

#### (4) 平成29年度岡山E S D事業活動 (神武天皇東征 (吉備国) に関わる高島サミット) 等の展示 (平成30年2月17～18日 光南台公民館文化祭 600名)

- ① 高島史跡調査 (29.10.1)
- ② 高島サミット (29.10.15)
- ③ 高島探索 (29.10.15)
- ④ 神武天皇東遷 (水島～宮浦) 海路調査 (30.1.7)

2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ
(1) ESD の視点を取り入れたところ
① 神武天皇東征に関わるそれぞれの地域における神話・史跡の伝説について、サミットを開催して資料を編纂（冊子）した。
②、岡山県、岡山市の担当者を招いて、神話伝説・史跡の伝承・保存および歴史資源の活用について、提案・助言を頂いた。
③ それぞれの地域における神話伝説・史跡を持続的に継承・保存するための連絡会、連携について協議を行った。
④ 平成 28～29 年度の ESD 活動内容を光南台公民館文化祭において展示を行い、子どもから大人まで広く公開した。
(2) ESD の視点で見直したところ
① 活動を宮浦地区のみでなく、笠岡市、倉敷市、岡山市からの参加者によるサミットを開催した。
② 岡山県、岡山市の担当者をサミットに招いて、行政面からも連携をお願いした。
③ 神武天皇吉備国東遷に関わる神話伝説・史跡に関する ESD 活動を光南台公民館文化祭に展示することで、子ども達にも地域の宝である神話伝説を広く伝えた。
④ 神武天皇吉備国東遷に関わる各地の神話伝説の資料、史跡の写真の収集を行い、冊子にして、それぞれの地域において持続して継承、保存活動ができるようにした。
3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）
(1) 取り組みの成果
① 各地でそれぞれに神話伝説の継承、史跡保存をしていた関係者（歴史研究者等）が一堂にお集まりサミットを開催したことにより、それぞれの点が線になり連携が深まった。またそれぞれの神話伝説の資料、史跡の写真を持ち寄り編纂した冊子を作ることができた。
②、平成 28 年度、平成 29 年度の ESD 事業で作成した冊子により、各地における神武天皇に関わる史跡探検がスムーズに行えるようになった。
③ 学校では習わない神武天皇の神話伝説を地域の子供達に展示することで、子ども達が神話伝説に興味を持つことが期待される。
(2) 感想
① 今回、それぞれの地域における神話伝説に関わる資料、史跡の写真を持ち寄って冊子にしたが、それぞれにおいては歴史研究家が高齢になり神話伝説の継承・史跡保存が出来なくなったり消えていっているのが現状である。行政等と連携して貴重な資料、史跡の保存に取り組む必要性を強く感じた。
② 神武天皇吉備国東遷の神話伝説は岡山県にとって、歴史上貴重な観光資源となっている。岡山県が各地区を巡るツアー等計画して、観光資源の有効活用、神話伝説の継承において重要と思われる。

4. 今後の課題と展望

(1) 今後の課題と展望

- ① 神武天皇東征に関わるそれぞれの地域における神話伝説の継承・史跡の保存は後継者不足で年々困難になると思われる。
- ② 子ども達は神話伝説は学校では学ばないので、神武天皇吉備国東遷でそれぞれの高島等に立ち寄ったことは知らない子どもが多い。そこで地元の小中学校に冊子を寄贈して、地元の神話伝説を持続的に伝える予定である。また、地元の各小中学校に出向いて出前講座を行うことも有効と思われる。
- ③ 宮浦の高島についても「高島遺跡見取図」は現存するが、個々の遺跡については標識も無く場所が分からない状態になっている。見取図を参考にして早急に場所を調査して標識を立てる等が必要である。